

(4) 赤潮発生状況調査

予算

運営費交付金

概要

赤潮発生件数は25件で昨年(17件)より大幅増加。本年は例年と同様珪藻類による赤潮が多かったのが特徴。構成種は*Skeletonema* spp. が最も多く、次いで*Chaetoceros* spp.、*Thalassiosira* spp.、小型中心目珪藻類であった。有害・有毒種では3月に*Alexandrium tamarense*、7~8月に*Karenia mikimotoi*、12月に*Heterosigma akashiwo*による赤潮が発生した。*K. mikimotoi*の赤潮では、大阪湾南部において蓄養の魚類の斃死が確認された。*Chattonella marina*は最高1 cell/ml、*C. ovata*は最高1 cell/ml、*K. mikimotoi*は定点調査では最高9,510 cells/mlを確認。*C. antiqua*は確認されず。これらの情報は大阪湾赤潮速報として大阪府立環境農林水産総合研究所ホームページ(<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/suisan/gijutsu/akashio/index.html>)で公表した。

調査方法

1. 調査定点
大阪湾全域20定点(浅海定線調査に準じる)、もしくは東部海域14定点(水質監視調査に準じる)
2. 調査期間と実施日
2019年1月~12月について、貝毒警戒時期である2~5月、赤潮多発期である6~9月は概ね週1回、それ以外の月は月2回
3. 調査項目
水色、透明度、プランクトン細胞数等
4. 調査船
漁業調査船「おおさか」(19トン、680 kw×2基)

調査結果

表1~4のとおり。

担当者

上田真由美、秋山 諭、山本圭吾

表 1 赤潮発生状況調査 発生継続日数別赤潮発生件数結果

発生期間	5日以内	6-10日	11-30日	31日以上	計
発生件数	18	2	5	0	25
うち漁業被害を伴った件数	0	0	1	0	1

表 2 赤潮発生状況調査 月別赤潮発生確認件数結果

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
発生件数	1	2	1	4	2	3	5	5	4	0	1	1
うち前月より継続した件数	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0
被害件数	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
うち前月より継続した件数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

(注)月をまたがって発生した赤潮はそれぞれの月にカウントした。

表 3 赤潮発生状況調査 赤潮構成種別発生件数結果

No.	赤潮構成種名	発生件数(件)
1	<i>Skeletonema</i> spp.	8
2	<i>Chaetoceros</i> spp.	3
	<i>Thalassiosira</i> spp.	3
	小型中心目珪藻類	3
3	<i>Noctiluca scintillans</i>	2
	<i>Karenia mikimotoi</i>	2
	小型鞭毛藻類	2
4	<i>Alexandrium tamarense</i>	1
	<i>Leptocylindrus</i> spp.	1
	<i>Eutreptiella</i> sp.	1
	<i>Heterosigma akashiwo</i>	1
計		27

(注1)最優占種のプランクトン別に年間を統計して赤潮構成種を発生件数の多い順に記入した。

(注2)複合赤潮の構成種はすべて計数した。

表 4 赤潮発生状況調査 赤潮による被害発生状況結果

整理番号	被害時期	原因種	魚種	被害尾数	被害金額	最高細胞密度(cells/mL)
1	7/31	<i>Karenia mikimotoi</i>	蓄養 魚類斃死 ハマチ	不明	不明	2.42 × 10 ⁴
			蓄養 魚類斃死 カンパチ	不明	不明	